

平成24年度 第4回CCC国際関係学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時：平成24年9月24日（月）10：00～

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：佐渡友委員 多賀委員

（事務局）井端事務局長 森下主幹 松本職員

IV. 議事概要

学士力実現に求められる教育改善モデルの検討

1. 教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題

前回の委員会でもとめられた「教育改善モデル実現に求められる教育力」の6項目に沿って、事務局で作成された案をもとに、FD活動の現状について考察し、教育力の点検、評価、改善の方法について検討した。その中で、これまでのFD活動は効率的に行われていないとの指摘があり、新たなFD活動を提案する必要性が提言され、検討の結果、以下のようにまとめられた。

（1）FD活動

- ① 学生にリアリティを認識させるためにフィールドワークの体験情報や実務経験の情報を公開し、学生に自らの問題として受け止めさせる仕組みを日常的に整える。
- ② 地域社会から地球社会にまで至る諸問題をテーマに教職員、学生、実務家が地球市民の立場で検討する対話集会を設け、それらの諸問題にどのように関与すべきか考えさせる機会をつくる。
- ③ 大学が主宰して現実に地球社会で生起している紛争解決の場を実際に設ける。

（2）大学としての課題

- ① FDの基盤情報として授業の録画、教材コンテンツ、ネットワーク上のディスカッションなどをアーカイブ化し、共有可能なプラットフォームを整備する必要がある。
- ② ICTを用いた教育手法を支援する組織と環境を大学として統合的に整備する必要がある。
- ③ 学内外の関連分野教員や世界の学識者、専門家などと連携して教育を進めるための制度の整備及び財政的な支援を行う必要がある。

2. 学士力の解説

（1）学士力の背景について

学士力を設定した背景について、国際関係学のミッションについて述べ、グローバル社会、高度情報社会の状況や課題について論じ、国際関係学教育の目標を記述することになった。具体的な課題として、環境問題、格差問題など、それぞれの項目に関して検討し、まとめられた。

(2) 到達目標の解説について

3つの到達目標（1. 国家・地域・国際組織、多国籍企業、NGOなどで構成される国際関係の基本的な仕組みとその背景を理解できる。2. 国際的な事象・課題などについて、国家、地域、国際社会の観点から調査し、多元的価値・複合的な視点から分析・説明できる。3. 国際社会と国家、個人などとの関係を認識し、地球的規模で人類共通の問題解決に向け、支え合う態度を身に付ける。）について、なぜ到達目標を達成することが必要なのかを述べ、達成目標について論じ、そのための具体的な内容を検討し、まとめられた。その際、到達目標、コア・カリキュラムのイメージについても再検討し、まとめられた。

V. 今後について

24年度の委員会は本日で終了とし、国際関係学教育における教育改善モデル（その1）、（その2）に追加する図、全体の確認は、メールで行うことになった。

以上